

第1章 いわき市の概況

1 土 地

いわき市は、昭和41年10月1日に5市4町5村の合併により誕生しました。本市は福島県の東南部に位置し、南端は茨城県、西は阿武隈高原、東は太平洋に接しており、面積は1,231.35km²で、福島県全体の約8.9%を占める広大な市域を有しています。

また、地形の状況は、西部の山地と東部の丘陵地・低地に大別されます。山地は矢大臣山をはじめとした平均700m前後の山々が連なっており、その面積は市域の約70%を占めています。

東側の低地は太平洋に面して平野が開け、夏井川、鮫川などの河川が阿武隈高地から市域を貫流し、太平洋に注いでいます。

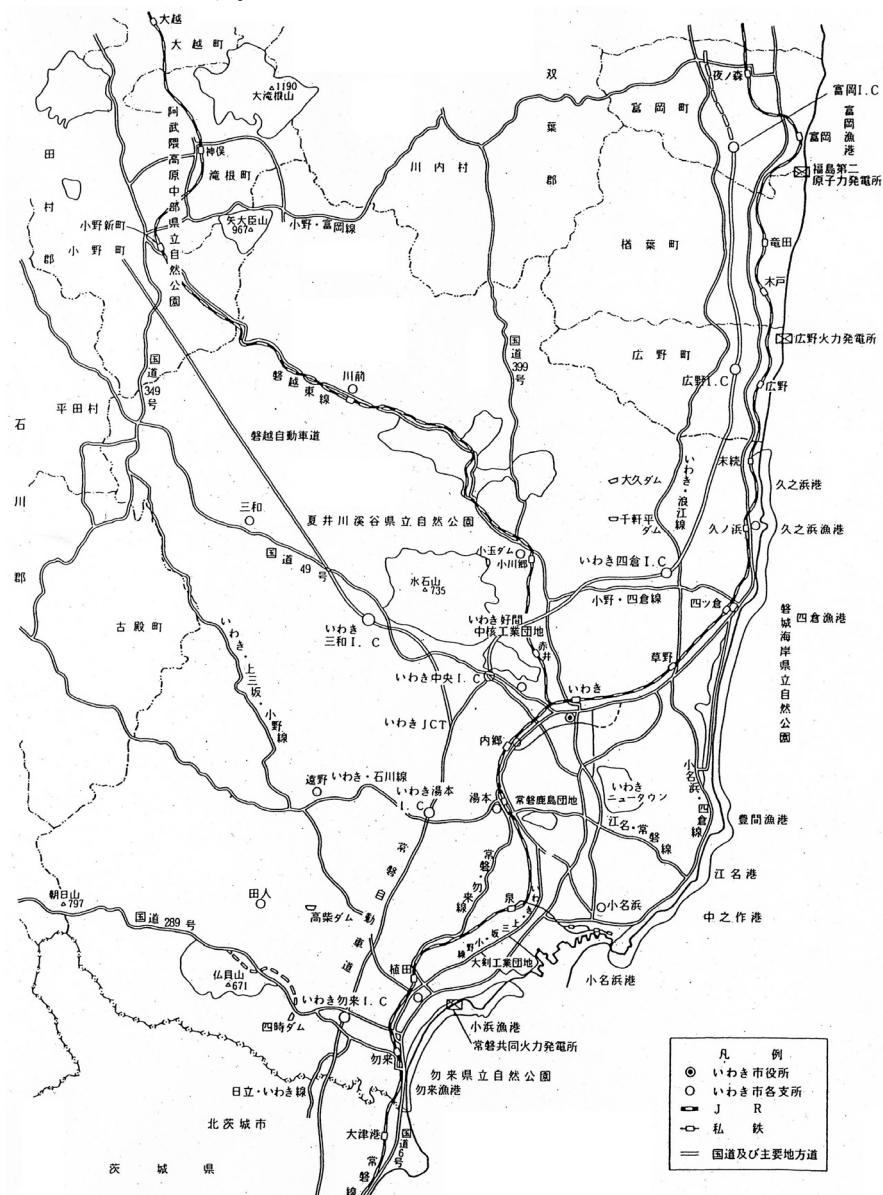
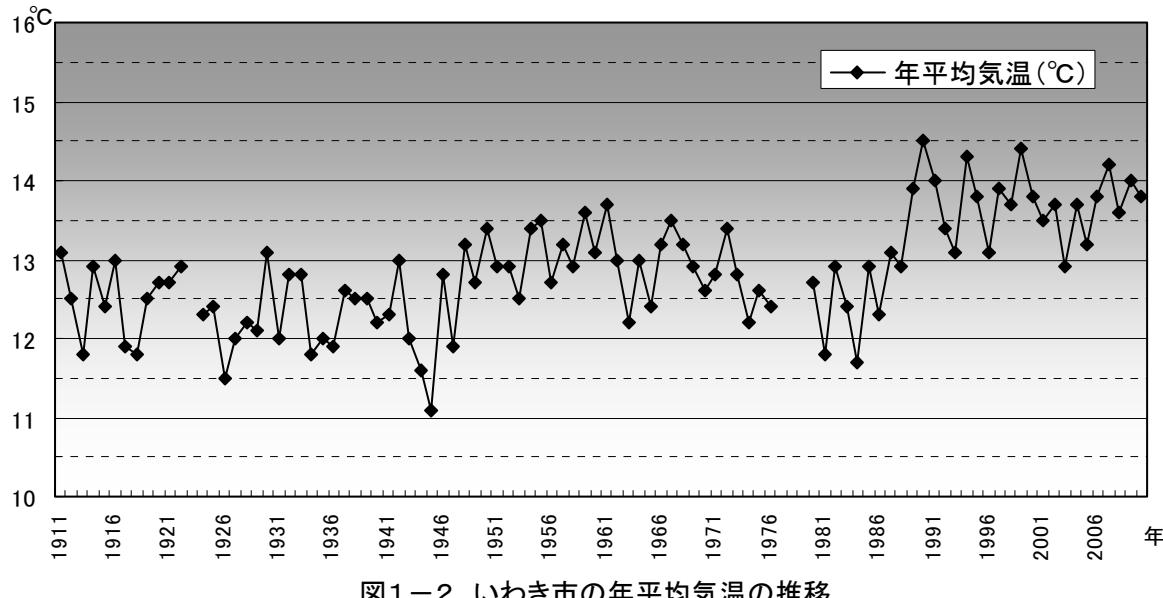


図1-1 いわき市行政区域図(1,231.35km²)

2 気 候

本市は、年平均気温は11～15℃前後、また、年間降水量は800～2,000mmと少なく、積雪は年1～2回観測される程度で、県内でも温暖で過ごしやすい地域です。

しかしながら、年平均気温は近年高くなる傾向が見られます。

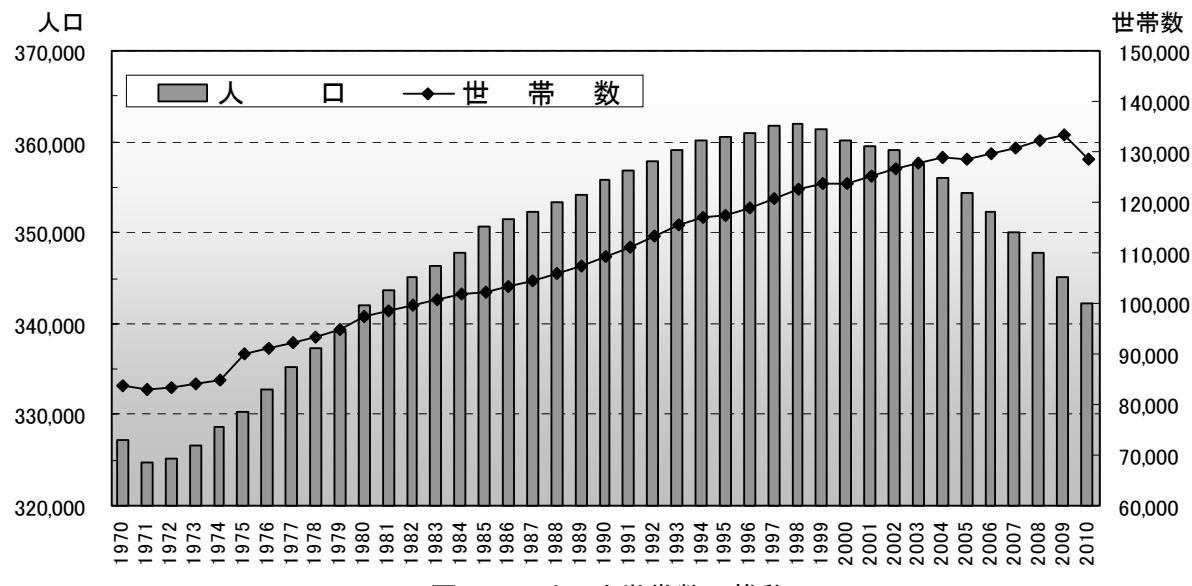


(小名浜測候所気象データより作成)

3 人 口

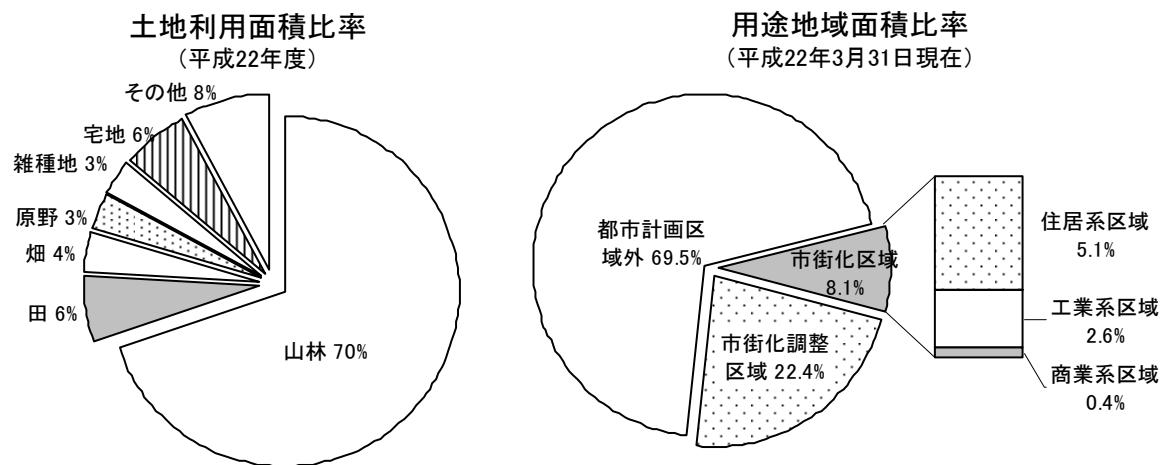
本市の人口は、昭和33年（1958年）の354,744人を第1次のピークとし、その後、炭鉱の閉山などの社会的要因により年々減少の傾向にありました。昭和46年（1971年）を底として増加の傾向に転じました。

平成22年10月1日現在の人口は342,198人、世帯数は128,516世帯であり、福島県の総人口の約17%を占めていますが、ここ数年は減少傾向となっています。



4 土地利用

本市の土地利用の状況は、地目別に見ると山林の割合が最も多くなっていますが、市域面積の約30%が都市計画区域に指定されており、平・小名浜・勿来・常磐・内郷地区を主に市街化区域とし、これを中心に市街化調整区域等が広がっています。市街化区域のうち、工業系地域は小名浜・勿来地区の沿岸部に集中しており、市域全体に占める割合は他市に比べ高くなっています。



5 産業

(1) 工業

本市の工業は、明治以来、石炭産業を中心に発展してきましたが、昭和30年代からのエネルギー革命により、産業構造の転換を迫られました。このような中、工業団地の整備とそれへの企業立地が進み、東北地方第1位の工業製品出荷額を誇る、東日本有数の工業都市に成長しました。

市内には、臨海部の小名浜臨海工業団地、内陸部のいわき好間中核工業団地を始めとする15の工業団地があり、平成21年の製品出荷額等は約8,330億円で、福島県全体(4兆7,245億円)の17.6%を占めています。

このうち、情報通信機械器具製造業が全体の16.7%、化学工業が15.3%、輸送用機械器具製造業が9.6%と続き、これら上位3業種で製品出荷額等の4割以上を占めており、以下紙・パルプ、金属、食料などの順になっています。

(2) 商業

本市の商業は、平成19年の卸小売業年間販売額が約8,492億円で、郡山市に次いで県内第2位の地位にあり、浜通り南部の中心地としての役割を果たしていますが、商業地域は市内各地区に分散している状況にあります。

(3) 農林業

本市の農業は、これを取り巻く社会環境の変化に伴い、農家数、耕作面積とも年々減少の傾向にあり、特に専業農家の減少傾向については著しいものとなっています。

農業産出額は平成18年度が約108億円となっていますが、兼業農家の割合は61.4%（平成17年2月1日現在）と高く、農家経済は農業外収入に大きく依存していると言えます。

また、本市における林野面積は89,006haで、市域面積の72.3%を占めています。林業就業者は減少傾向で推移していましたが、平成17年は287人で、平成12年に比べ15.7%の増となっています。

(4) 水産業

本市の水産業は、重要港湾の小名浜港、地方港の江名港及び中之作港をはじめ、第2種漁港の久之浜港、豊間港及び勿来港などの多くの港湾、漁港の基地があり、沿岸、沖合、遠洋漁業が行われています。また、漁業就業者は昭和60年の2,866人、平成7年の1,272人から大きく減少し、平成17年には819人となっています。

本市の平成21年の水揚げ量は約2万トン、漁獲高は約46億円となっています。魚種別にみると、「サンマ」「カツオ」「サバ類」などが水揚げ量の多くを占めていますが、その量は減少傾向にあります。